

# 大会宣言

私たちは本日、連合大阪第 19 回定期大会を開き、第 31・32 年度運動方針を確認した。方針を貫く考え方は、「結成 30 年を機に連合大阪のさらなる発展・飛躍への決意！！まもる・つなぐ・創り出す～そして、私たちが未来を変える～」である。

急速なグローバル化や市場原理主義が、全世界に分断や対立を生み出している。日本でも政策面の不作為によって格差や貧困が深刻化しており、人口減少と超少子高齢化が進む中、社会保障制度と地域社会の持続可能性の確保がまったなしの課題となっている。しかし、政府は場当たりのととれる対応に終始し、将来のグランドデザインを示せていない。無責任な政治に対する失望は、国民の政治不信を拡大させており、日本の民主主義が土台から揺さぶられている。

大阪においても、一強政治の下、深刻な社会問題は置き去りにされたままである。大阪維新の会は、いわゆる大阪都構想をめぐる議論を数の力を背景にして推し進めており、2020 年秋には再び住民投票が実施される見通しとなっている。2025 年の大阪万博開催、カジノを含む統合型リゾート誘致など、大阪の未来に影響を及ぼす動きが強まる中、政治には、多様な民意を丁寧にととめあげることが求められている。

私たちは、私たちの未来を、次の世代に続く持続可能な社会、互いに認め支え合い、誰一人取り残されることのない包摂的な社会に変えていかなければならない。分断や対立を許さず、人間が人間らしく生きることのできる社会を、働く者の共同意思のもとに築いていかなければならない。こうした思いの下、連合は、2035 年の社会を展望した運動と政策の方向性として、連合ビジョン「働くことを軸とする安心社会 —まもる・つなぐ・創り出す—」を提起した。

連合大阪は、2019 年 12 月 16 日に結成 30 周年を迎える。この大会を機に、労働組合として果たすべき社会的責任や求められている労働運動とは何かを今一度見つめなおし、以下の決意を込める。

- これまで大切にしてきた価値観や積み上げてきた運動や政策を継承・発展させ、大きな時代の変化に対しても果敢に挑戦していく。
- 働く仲間一人ひとりの参加のもと、社会に広がりのある運動をつくりあげていく。
- 積極的な社会対話を通じ、様々な課題の解決を着実にはかっていく。

そして、すべての働く仲間・生活者の先頭に立って力強く運動を展開し、課題を一つひとつ克服するため、連合に集う仲間のもとより、志をともにする仲間とともに、未来を変えていく。

以上宣言する。

2019 年 10 月 18 日  
連合大阪第 19 回定期大会